

## 南足柄市立南足柄中学校

研究テーマ：思考力、判断力、表現力等が高まる授業の工夫  
～主体的・対話的で深い学びをめざして～

### 1 実践の目的

本校の「学習意識調査」では、「私は、人に対して自分の考えや意見を伝えるのが得意である」という項目に対して、肯定的な回答が少なく、自分の考えを伝えることに関して苦手意識を持つ生徒が多い。そこで、これまでの校内研究の成果を生かすとともに、生徒が主体的・対話的で深い学びとなる学習を実現する授業改善に取り組み、生徒一人ひとりが自信をもって、自分の考えや意見を伝えられるようにしていきたい。

生徒間の対話を重視しながら生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に育成する学習を創造することが、実践の目的である。

### 2 実践の内容

#### (1) 授業力向上

##### ア 話し合い活動(対話)による「深い学び」をめざした授業改善

主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践に向けて、各教科で以下のような場面を促す授業改善を行う。

- ①生徒が自身のなりたい姿やゴールを描き、探究型授業に取り組む。生徒が自己の学びを振り返り、次の学習へつなげる。
- ②生徒が対話の目的を明確にもち、他者の考えを受容し、他者を意識して話す。また、授業者は生徒が話したいという話題や状況をつくる。
- ③生徒が各教科の見方・考え方を働かせ、獲得した知識を活用し、未習と既習がつながる喜びを味わう。
- ④思考ツールを用いて、複数の意見から新

たな意見を生み出す活動を行う。

#### イ ICTを活用した授業実践

ICT機器の活用をしながら、教育効果の高い利用方法について整理し、実践を進めている。全国学力・学習状況調査の生徒質問紙では、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立ちますか？」の質問に対し、90%近くの生徒が肯定的意見であった。

情報活用能力の育成においては、各教科で工夫した取り組みを行った。

##### ①技術科の取り組み

ロボットの操作について、各種部品の学習、電源の学習、接続の学習、プログラムの学習等、総合的に課題を解決して、目的の動作を行わせる学習。

##### ②社会科の取り組み

スライド等で発表資料を作成する際、どの情報が正しいものなのか、できるだけ複数のサイト(信頼できる)から同じ事象に対して考察させる学習。

##### ③保健体育科の取り組み

バレーボールに取り組む際に、オクリンクプラスを使い、戦術に関する意見を入力したカードを共有し、話し合い活動を行う学習。



(保健体育の授業の様子：

オクリンクプラスを用いた授業)

## ウ 特別支援教育の充実

1年間を通し、すべての教員が特別支援学級のT1またはT2という形で継続的にチームティーチングを行った。特別支援学級担任の指導方法を学び、自身の指導力・実践力を高める良い機会となった。そのような経験が発達支持的生徒指導の立場に立ち、すべての生徒に支援教育を行う基盤となっている。

### (2) 自らの言葉で考え、伝えることができる生徒の育成をめざした校長講話の取り組み

全校集会には校長講話が複数回計画されている。校長講話を聴いた後、教室でその講話について感想や意見を書く「聴いて、考えて、伝える」活動を、年間を通して行っている。

講話後、生徒は教室に戻り、30分間程度、ワークシートを前に自分自身と向き合い（自分自身と対話し）、自分の考えを構築していく。生徒が記入したワークシートは担任や学年主任、校長が一読し、学校だよりを通じて、同学年や異学年の様々な意見に触れ、自分と他者の考えの違いを知ることによって価値観や多様性についても学ぶことができ、道徳教育もより促進されている。



(校長講話の様子：

うさぎとカメの話の続き)

## 3 実践の成果と課題

授業者が生徒の視点に立った授業改善を行い、自己の学習活動を振り返って次につなげる活動や生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める活動を授業の中に多く取り入れた。その結果、生徒は自分の変容や新たな学びに気づけるようになり、多くの場面で、自信をもって考えを周りに発信できるようになってきた。このことは、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査（4月・12月実施）において、「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている」生徒の割合が増えていることからもうかがえる。

また、令和6年度の全国学力・学習状況調査結果では、国語・数学の正答率がともに全国平均を大きく上回るなど、実践の成果をあげた。

## 4 今後の展開

急速に変化する社会情勢の中で、ICTや先端技術の活用を通して、学習の基盤となる資質・能力を確実に育成し、多様な生徒一人ひとりの興味・関心に応じた意欲の向上や生徒自身のやりたいことを深めることができる学びの提供が求められる。

授業改善の視点では「個別最適な学び」を進められるよう、これまで以上に生徒の成長やつまずき、課題の理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援すること、探究的な学習や体験活動等を通じ、生徒同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することが大切である。

これらの課題を、校内研究の柱として、全教職員で共有し、具体的な実践につなげていきたい。